第2回 幼保小連絡会のまとめ

＝１７小学校区における話し合い＝

日時：平成 28 年(2016 年)1 月 18･19･21･26 日実施

会場：17 会場…小学校･認定こども園･幼稚園･
保育所(園)･児童発達支援センター

蛍池・刀根山小学校区

【参加人数】小学校(7)名 こども園(8)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(6)名 児童発達支援センター(0)名

1、 小グループでの交流

テーマ

聞く力・伝える力・関わりを持てる力を中心とした取り組みと子ども達の育ちの交流

○異年齢交流のかかわりの中で

「幼保小」の交流の中で、低年齢の子への伝え方を工夫する姿が見られた。異年齢のクラス編成にすることで、年中児は“聞く”態度を習得した。異年齢のかかわりで自信をつける姿があった。

○話し合い活動

運動会等の行事を子ども達がグループで話し合い、自ら進める実感をもてるようにした。少人数のグループにすることは話やすくなる。何でも話せる関係づくりが“伝える力”を育てる。

○絵本等の読み聞かせ

年長クラスになると長編の物語を読み聞かせをして“聞く力”をつけるようにしている。また、絵本の読み聞かせ後、感想を話すことを積み重ねていくことで、上手く気持ちを表現ができるようになった。

○様々な活動

園での毎日のマラソンや千里中央公園へ徒歩遠足等の体づくりの取り組みで、姿勢がよくなった。絵カードを使った遊びで集中力と思考力を高め、聞いたことを自分で考え理解する力がついた。

○支援の必要な子とのかかわり

一緒に遊ぶ方法を考えることをきっかけに、いろいろなルールを自分達で話し合って決め、「いや」という気持ちも素直にだすようになった。

○終わりの会の発表

「小学校」で毎日取り組むことで、自分の意見を伝える力と相手の話を聞く力がついてきた。

2、 全体での交流

○具体的な取り組みを交流したことで、入学してくる１年生のことを改めて知ることができた。教師が主導になりがちな点や手を掛け過ぎな点を見直す必要を感じた。

○日々の生活の中で、周りの大人が正しい“伝え方”を意識していくことが大事である。

○自ら伝える力をつけることが大事。子ども同士の関係の中で個の様子を把握する。「幼保小」で取り組みや子どものことについて引き継ぎ、連携する。

3、まとめ・課題

「聞く力・伝える力・関わる力わる力」は日々の生活や様々な取り組みを積み重ねていく中で、相互に関係しながら子どもの育ちへとつながるといえる。３つの力に着目した取り組みを交流したことで、就学前と就学後の子どもの生活を互いに知ることができた。特に、就学前の子ども達は各施設において異なる生活を送りながら、取り組みの中でテーマに沿った一定の育ちを確認できた。ただ、“伝える力”については課題を残すところが多いようだ。小学校においては、就学前の異なる生活をもつ子ども達の関係の中で、就学前に大事にしてきたことを受けて、新たな取り組みへ連携していく。

克明・箕輪小学校区

【参加人数】小学校(7)名　こども園(12)名　幼稚園(1)名　保育所(園)(3)名　児童発達支援センター( )名

1、　基調とした発表

箕輪小学校　「子どもたちにつけたい力として、学年で大切にしてきたこと」

・話しを聞く → 聞いたことを自分なりに理解し言動につなげていく　自己判断力をつける

・自分を知る 友だちを知る → 自己肯定感を持つ　一人ひとりの個性を認め合う

・自分の思いを表現する　→　自分の気持ちを自分らしく相手に伝わるように表現する　人とつながる

・コミュニケーション力を育てる　人の思いをわかろうとする力をつける

そのために子どもたちが日々集団として成長してほしいと ＯＯＤＫ【おもいやりを表に出し訓練する】 に取り組んでいる。困った子がいたら助ける、出来ることはしてあげ出来ないことは助けてもらうを実践し、「ＯＯＤＫしてね」の声かけに子どもたちも出来るようになり成長を感じている。そして子どもたちにとって不可欠なのが親の愛情。大好きだよと抱きしめられる親とのつながりが、クラスの先生と子、親と子、先生と親のつながりの絆として大きな力を発揮する。

認定こども園 蛍池文化幼稚園　「子どもたちにつけたい力について職員で話し合い、《 聴く力、伝える力、考える力、思いやり 》をつけてほしいと取り組みました」

・S1あそび ：　1時間程かけて行う4コマ漫画やパズルあそび等の知能あそび
　子どもたちの答えを導き出すまでの過程を大事にし最後まで諦めずに考えることを1週間に1度取り入れた

・姉妹園で、なかよし会・たてわり保育を月2～4回交流を深め関わる中、自然と思いやりの心が育っていることを感じている

・様々な行事の中で、発表の場を設け、グループで相談したり協力したりして問題を解決することを大事にしている

・学期ごとに1回のクッキング活動を通し、協力と思いやりの中でグループで役割分担をし、進めて完成させている姿がある

・月刊絵本を読んで聴く力をつけたり、主語述語がある文章で話すよう指導し、保育の中で一人ひとりがしっかりと考える力がつくよう、たくさんのグループ活動を取り入れている

今後も家庭と協力して丁寧な会話とコミュニケーションに気をつけて取り組んでいきたいです。

2、　話し合った内容

幼稚園・保育園・小学校 それぞれが取り組んでいる事と今後の課題について意見を出し合いました。

3、　今後の課題・まとめ

非認知能力を高めることは、日々の繰り返しの生活がとても大事で、その背景にいる親の力がとても重要になってくる。そして自己肯定感を育て自信を持てるようにするには、なんでもないことを褒め愛することが大切である。自分を大事にする人は、子どもも他も大事に出来るので、一人ひとりが実践して、より良い子どもたちの成長につなげていきたい。

桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校区

【参加人数】小学校（9）名　こども園（4）名　幼稚園（9）名　保育所(園)（10）名　児童発達支援センター（2）名

1、　基調とした発表

桜井谷東小学校『ありのままの気持ちを伝える』

大人や友だちを信頼している優しくて親切な子どもたちだが、失敗しても何も言えなかったり、自分の気持ちを伝えられないことがある。そこで、『ありのままの気持ちを伝える』ことを目標にいくつかのワークショップを行った。「気持ちカード」を使って、日直がその日の気持ちを伝えたり、「気持ちいっせ～の～で」で、自分と同じ気持ちの友だちを見つけたり、「すごろく」で、自分と違う気持ちの友だちを見つけたりして、人と違っても大丈夫だということを学んだ。

豊中みどり幼稚園『主体性を育てる』

「友だちと相談、協力して遊びや生活を作り出すことを楽しむ」を目標に、つくってみよう会の取り組みを行った。最初に子どもたち全体で話し合い、テーマを決めた。次にテーマごとにグループに別れ、できあがりのイメージ図を描き、使いたい材料を考えた。さらに小グループに別れ、作り始めた。1日の目標や次までに準備するものなどをふり返ることで主体的に取り組めるようになった。また、友たちと力を合わせる共同作業を通して、創作意欲や協調性を育むこともできた。

2、　話し合った内容

入学までにつけたい力

小学校・友だちとのコミュニケーションのとり方

- ひらがなや数字を知っておいてくれると学習する上で効果的
- 給食が気になって登校を渋る児童がいるので、「給食を残していいですか？」と伝えられるようになって入学してくれると助かる。

幼稚園、保育園

- 気持ちを言葉で伝えられるようになってから、小学校に上げたい。
- まわりの人に支えてもらいながら何かができるようになっておきたい。
- 次に何をしたらいいのかを考え、行動できるようになっておきたい。
- ルールを子どもたちで考え、決められるようになっておきたい。

3、　今後の課題・まとめ

- 自分の気持ちを言葉で伝えるられるようになるための取り組みを工夫する必要がある。それが、児童が友だちや大人との信頼関係をはぐくむのに役立つ。
- 授業と休憩時間をチャイムで気持ちの切り替えができるようになること。
- 保護者とのやりとりが、小学校は少し足りない印象がある。

野畑・北緑丘小学校区

【参加人数】小学校（９）名 こども園（５）名 幼稚園（８）名 保育所（園）（２）名 児童発達支援センター（０）名

１、 基調とした発表

メインテーマ
「幼保小教職員連携を深める中で子どもにつけたい力とは」
サブテーマ
「一人ひとりの子どもを大切にした引継ぎのありかたとは」
①新一年生交流会の内容について
②小学校就学に向けて子どもたちに身につけてもらいたい力とは
野畑小学校グループと北緑丘グループにわかれて、話し合った。

２、 話し合った内容

①新一年生交流会の内容について
【野畑小学校グループ】
・はじめのことば　歌「夢をかなえてドラえもん」を一緒に歌う
・グループにわかれて各教室に移動
・自己紹介、授業体験（ひらがな or さんすう）
・体育館へ移動して皆で遊ぶ　「じゃんけん列車」
・おわりのことば
※授業体験はひらがななどが苦手な子でも楽しく参加できる内容に
困ったときは１年生が優しくフォローしてくれる
※引率者について（保護者 or 職員）
※配慮が必要な子はいるか
【北緑丘小学校グループ】
・体育館で集合　１年生誘導のもと、校内見学
・各教室へ行き机に座ったり、ランドセルを背負ってみたり、授業体験
・ゲーム、歌
※２７年度内容参照
※小学校就学への期待が持てるような内容に
※和式トイレが多いため排泄できるか心配（洋式が増えているため）
②小学校就学に向けて子どもたちに身につけてもらいたい力とは
・力を入れてクレパスで絵を描いたり塗りこみをしたりしてしっかりとした筆圧で線が書けるようにし、たくさん絵を描いて、手首をやわらかくすることをしてほしい。また、紙をやぶるなど指先に力を入れて何かに取り組むなど手先が器用になる活動を多く取り入れる。
・幼稚園でひらがなを先に勉強してしまうと、小学校に入学した時に「もう知ってるー！」などと勉強することへの意欲が薄れてしまう。入学して子どもたちが意欲的に授業に取り組めるようにしたい。
・給食は小学校ではだいたい２０分程度。入学当初はもうすこし長く時間をとり準備の段階から丁寧に行う。保護者の方から給食に関しての相談などがあったら、小学校に入ってからでも様子を見に行くこともできると伝えてほしい。
また、決められた時間の中で集中して食事ができるように声を駆けていきたい。

３、 今後の課題・まとめ

○この幼保小の連絡会を通して子どもたちの入学後の様子を聞くことができるので、今後もこの会を通じて連携をうまくとっていきたい。
○入学前の引継ぎでは、子どもたちの様子だけでなく、保護者の方の特徴について（配慮していきたい関係など）も細かく引き継ぎしてもらえると、クラス分けをする際参考にできる。
○個人情報などといったこともあるが、まずは子どもたちが入学してスムーズに小学校生活を進めていくことができるよう、また、職員と保護者が早く打ち解け信頼関係を築いていけるよう、連携を深めていきたい。

大池・少路・上野小学校区

【参加人数】小学校(12)名 こども園(7)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(3)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表

○ 小学校より 「1年生の取り組みの様子」

・入学前から、文字の読み書きや生活習慣などが身についている。

・1学期は落ち着かなかったが、徐々に学習規範を身につけていった。又、他学年との関わりや行事など色々な体験を通し、友人関係も深まっていった。

○ 幼・保・こども園より 「各園所の特徴」、「今年度の体制・取り組み」

・新制度に移行した園、幼稚園・保育園のまま移行しなかった園など、様々ではあるが、縦割りで異年齢交流を大切にしていたり、食育や当番、グループ活動など保育内容はこれまでと変わっていない。

・新制度に移行した園で変わったところは、弁当の日でも保育所型の子供は、希望により給食にもできることや、所得に応じて市が保育料を決定するようになったこと等である。

2、 話し合った内容

・食育の話から、「小学校の(1年生の)給食指導は、どういった取り組みがなされているのか」という話題になった。
給食が始まる最初の頃に、給食センターの方にも来ていただき、2時間程かけて小学校での給食のマナーやルールを伝えていく。その後、習得するまで2か月はかかる。

・もう1点は加配について。幼・保から小学校に就学する際に、加配を付けている園児の保護者から「学校側に加配のことは伝えないでほしい」と要望があった。しかし小学校としては、その子自身のためにも他の児童のためにも“気になる子”については事前に申し送りが必要だ。幼・保・小で連携することが大切である。(※ 小学校では、支援学級に在籍していないと、加配は付けられないことになっている)

3、 今後の課題・まとめ

・新制度に移行した園は、まだまだ手探り状態で戸惑うことも多く、特に事務関係(書類の作成等)の負担の増大に困惑している。保育内容には、さほど変化はなく過ごしている。

・どういった内容であれ、幼・保・小の連携は大切であるため、今後も情報交換を密にしていきたい。

南丘・新田・新田南・西丘小学校区

【参加人数】小学校(15)名 こども園(5)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(8)名 児童発達支援センター(0)名

１、　基調とした発表

あけぼのドロップス

「幼児クラスの３年間の歩み」　～気持ちを伝える力の育ちを見つめて～

初めて、障がいＲくん（多動性・他者への攻撃）を受け入れてのクラス運営を行った。友達同士のトラブルがあると、Ｒくんが悪いと思ったほうに手を出してしまうなどのトラブルがあり、Ｒくんが怖くてさける子もいた。２年目、３・４・５歳児の縦割り２グループの生活がはじまる。違う学年との交流もあり、Ｒくんと周りの子どもたちの距離が徐々に近づきはじめた。３年目、トラブルを子どもたちが自分たちで解決したことをきっかけに、Ｒくんが関わっているトラブルでも保育者が見守るという姿勢をとるようになった。すると、子どもたちは、ますます自分たちでトラブルを解決できるようになったり、お互いに折り合いがつけられるようになってきた。Ｒくんも気持ちを伝える力がこの３年間を通して育ってきた。

西丘小学校

「ＮＰＯ法人えんぱわめんと堺」からの出前授業において学んだ「目・耳・ハートは聴く合図」を意識させ、子どもたちがさまざまなワークで自分の気持ちを大切にすることを学んでいった。異学年交流や班活動などの日々の取り組みの中で、発表の仕方や一人ひとりの意見を大切にきくことを少しずつ身に付けられるようになってきた。また、学習発表会という大きな行事をやりきることで、クラスを超えたつながりを持てるようにもなった。

みくま幼稚園

～人とつながる表現力を育む土壌をつくる～

人とつながる表現力を養う土壌とは　良質な小社会にあり、①人間らしいぬくもりのある安全安心な集団、②自主的に守られるに値する生きたルール、③先輩が後輩を育てていくことによる継続性、これらを実行し、親と子一人一人をよくみて必要なサポートをした。

２、　話し合った内容

・支援が必要な子どもに対して、「共に育っていく」「対等な関係」を大切にしていきたいと考えている。幼稚園の方で支援が必要だった児童が小学校でどのように受け入れられているかについて、小学校の様子を交流した。低学年については、給食や休み時間も支援担が見守り、授業においては、学校全体の協力を得ながら、時間数や人員も変えつつ支援担がつく。教師が入りすぎるのも良くなく、子どもたちの関係の中での育ちも大切にしていく意見が出された。

・新１年生になる子どもたちの聞き取りの時期について、いつ頃が望ましいかの意見交流を行った。現在の状況としては、大きな行事が終わり、親とも人間関係ができてきた、早くて２学期後半からで、大半は３学期の２月ごろが多い。また、子どもたちが小学校生活を落ち着いてスタートできるように、幼稚園の方で事前にクラス分けしてもらえることが望ましい意見も出された。

３、　今後の課題・まとめ

新１年生の聞き取りについては、今後は、非支援の子どもや保護者に配慮がいる場合についてもしっかり行う必要がある。 限られた時間ではあるが、今後も幼保小連絡会を軸にすることで、お互いの関係を深め、普段からの連携を図っていきたい。

東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

【参加人数】小学校(14)名 こども園(4)名 幼稚園(6)名 保育所(園)( )名 児童発達支援センター( )名

1、 話し合った内容

① テーマ：保護者の過剰な関わりについて、子どもが自立できるような保護者への促し方

② ワークショップ形式で実施。５つの班から協議内容を発表。

③ 主な内容

1） 保護者の話を受容的に傾聴する。
2） 早め早めの連絡により、信頼関係を築き、安心感を持ってもらう。
3） トラブルをネガティブにとらえず、成長の糧と理解してもらう。
4） 幼保小の連携。小学校生活の情報を伝え、就学前指導に生かす。
5） 本人の成長に必要な課題に絞って、きちんと伝える。回りくどいいい方をしない。
6） 自己肯定感を育むために、手助けをしすぎず、見守ることの大切さの意識付け。

④ 小学校への体験入学や幼稚園・こども園への聞き取りの日程調整と情報交換

2． 今後の課題・まとめ

中身の濃い、充実した協議ができた。子どもにとっての最善の方策は何かを常に考え、学校園所と保護者が同じ方向のベクトルで子どもを育てることを確認した。

小学校に入学してから必要とされる力や保護者の関わりかたなどを、この会で伝えていくことを課題とし、次年度につなげたい。

桜塚・南桜塚小学校校区

【参加人数】小学校（１０）名　こども園（1）名　幼稚園（８）名　保育所(園)（５）名

１．　基調とした発表テーマ

講演　「お子さんが元気で楽しい学校生活を送るために…」～「生きる力」を育みましょう！～

講師　　豊中市教育センター　支援指導員　木場　敬子

○「就学前相談」で保護者に話していること

① 学校では

・小学校の施設、トイレ、学年便り、集団下校、チャイムに合わせた活動、休憩時間などについて。

・入学前の子どもに、字は教えなくてもよいが、自然に目に入ってくるような工夫をすることが大切。

・わからないことや心配なことは、担任に聞いて確認するように話しているため、特に１年生の担任は、不安を抱える保護者に対して丁寧な説明を心がけることが大切。

② 小学校入学までにご家庭にお願いしたいこと

・子どもと一緒に歩いて、通学路の確認をするとよい。

・身辺自立が必要である。トイレ、着替え、整理整頓等、自分のことは自分でするようにさせておくとよい。

・基本的生活習慣が大切で、早寝早起き、朝食ごはんなどは身につけさせるのがよい。10～12 時間寝させる。

③ “離陸”のとき

・朝のあいさつをきちんとさせる。たとえ、子どもと接する時間が少なくても、どれだけ子どもに愛情をそそげるかが大切。また、善悪を知ることができるように、しかることも必要。

④ 入学式について

２．話し合った内容

①学習

・ひらがなや字を無理して教える必要はないが、クレパスなどで、筆圧をつけておくのがよい。

・幼保では、手遊びは小学校ではなくなるという考えがあったが、小学校でも入学時は子どもの緊張をほぐすために取り入れられている。

・国語と絵本はジャンルが違い、国語は文章の内容を読み解く学習。絵本は本の世界に浸って楽しむ時間である。

②身辺自立

・自分の考えや気持ちを、自分の言葉で相手に伝える力・人の話を聞く力を身に付けさせたい。

・身の回りのことを自分でやってみて、たとえ、失敗してもまた頑張ろうと思えるような前向きなチャレンジしてみようと思えるような気持ちを育んでいきたい。

・小学校の荷物はとても多い。幼稚園・保育所では、保護者が荷物を運んだり、子どもがレインコートを着て通園したりするため、月曜日が急に大変になる。傘を上手く巻けず、そのまま放ったらかしにしたり、巻くのに時間がかかったり、雨の日は下足室が混雑している。

３．　今後の課題・まとめ

・今後も、互いに取り組んでいることや出来事を具体的に伝え合うことで、入学を控える子どもや保護者の不安を軽減させていきたい。また、小学校は０からのスタートではなく、幼稚園・保育所で積み重ねたところから小学校が始まるという認識をもつ必要がある。

東丘・北丘小学校区

【参加人数】小学校(7)名 こども園(9)名 幼稚園(3)名 保育所(園)(2)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表

1年間の活動報告

〈北丘小学校(学級通信より)〉

・ひらがな—カタカナ—漢字とゆっくり丁寧に書くを重視して学習してきた。鉛筆を持つには、手首の運動が大事で色塗りをしてきた。北丘フェステバルで今まではお客の立場であったが、班活動しながら自分たちだけで頑張ろうという姿となってきている。

・幼稚園、保育所別の集団から、今は区別なくいろんな友達関係に広がり、色んな意味でスーパー1年生を目指している。春は声をかけてやっていたことが、自分たちで考え自主的に活動を提案企画して出来つつある。知識だけあってもどう使っていいかが　難しいところである。自分の事は自分で、自分たちの事は自分たちでやっていく事としてやっている。

〈東丘小学校〉

・新学期は45分持たず、座ることになれるから始めた。トイレ休憩をとりながら45分を過ごしてきたが、3学期になりトイレに行く姿が減ってきて、子どもにとって45分は大変な事。学校でどう過ごすかが1年生にとっては大事で先生、先生と教師とのつながりが大事であった。3学期の現在では、友達へと関わり・つながりへとが変わりつつある。時間のとらえ方が難しく（何分休憩？）少しずつ分かりつつある。給食当番もこぼさないようになってきており、経験を重ねることで、安心して見られる姿になってきている。

・外遊び、鉄棒、うんていは好きであるが、縄跳びは苦手な子が多い。

2、 話し合った内容(5グループで討議)

・就学前の子ども達は、0歳から集団保育の中でいろんな関わりをしながら様々なかかわり方で育ちあっている。一つの絵本を見るにしても、大人の言葉だけで育ちが方も異なってくる。また、夢中になれることが見つけられたら、集中できる力もついてくる。集中できる場面はその子によって違う事もある。いろんな経験を積み重ねてきており、年齢にもよるが、子ども達自身で活動を決めていくなどの経験をしているので、そのことを学校の職員も把握してほしい。

・園それぞれの保育の特色があり、子ども達の交流に関しては意味があり、地域との交流からも学んでいる。また活動には意欲を持って取り組む姿がある。

・小学校の自立とは「自分の事は自分でする」、園での自立とは「友達の事を気にしながら、自分たちの事は自分たちでする」という事では、自立という考え方の温度差を感じる。
1年生スタート時の自立とは、自分の物は自分で片づける。物の管理に繋がり、人の事より自分の事を・・・自分の事が出来て、他人の事もどんどん助けてあげる力がついてくると考える。幼では友達の事を思う事を大切にしている。自立を幼保小の連携でどう捉えるかは、スムーズな移行をしていくうえでも大切な事である。

・小学校で話すことは大好きであいさつ直後でもザワザワとなっていたが、3学期現在でもまだ気になる姿である。授業のつぶやきとおしゃべりの区別をする事を伝えている。幼保では先生の話や、大切な話を聞く経験を大切にしている。

・保護者との関わりでは、幼保は毎日密に保護者と話す事で個別の話ができ、今悩んでいる事など把握しやすい。小学校では気軽にという事はなかなかできない。その分子どもから自分で言って、困ったときに自分で伝えている。

3、 今後の課題・まとめ

・小学校が求める自立と、保育所・園が狙いとする自立の違いが発表やグループ討議で明確になってきた。それぞれの育ちの中で就学前の子ども達の姿や力をもっと小学校の教師に知ってもらうためにも、幼保小の連携や会議が大事であり、子どもの育ちを共有することを大事にしていく事が課題である。

中豊島・緑地・寺内小学校区

【参加人数】小学校(18)名 こども園(7)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(7)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表　　サブテーマ「表現する力を育む」

各校今年度特に力を入れた取り組み内容を発表した。

中豊島小学校　　手話・点字・歌・葉書き書き体験
寺内　小学校　　気持ちカード・作文用「魔方陣」シート・「ミミズの体操」音読発表会
緑地　小学校　　グループ活動や基礎学力（音読、読み聞かせ、読書推進等）の定着

いずれも指導方法・手段は様々であるが、学習で習得した知識と日々の当番活動・友だちとのやり取りの中での経験を踏まえて、より良い自己表現ができるようになるのを目指し、指導している。

ゆたか保育園　　年中・年長の縦割り活動、和太鼓指導
豊中ほづみ保育園　　5人のグループ活動、一日の振り返りで気持ちカードを使用
あけぼのぷんぷん　　0～2歳児の心身の受け止め（安心感と大切にされている実感が成長の基となる）
豊中あけぼの保育園　年長児雑巾掛け活動
てしまこども園　　登園降園時に気持ちカード活用
てらうちこども園　　おたすけカード使用
服部こども園　　4人のグループ活動（2人組2組は子ども同士の支え合いがしやすい）
服部幼稚園　　年長児による行事司会と年少児着替え手伝い活動
服部みどり幼稚園　　運動会、参観日、クリスマス行事等での発表体験

小学校同様、各園所での取り組みは様々であるが、就学前のあらゆる面で差の大きい子ども達の成長に沿い、一人ひとりの目線に立って丁寧に関わり、子どもと教員との間に信頼関係を築くことに重点を置いている。「好きな先生」「信じられる先生」という存在が、子どもたちの生きる力を育てる大きな原動力と考えるからである。

2、 話し合った内容

日々の取り組みや行事において自己表現の場数をこなすことにより、子ども達は着々と力をつけていく。1学期は感情的に自分の思いばかりを主張していても、2学期には他人に聞いてもらいたいという思いが芽生え、3学期ともなると衝突しながらも折り合う道を探る姿がある。

教員は、子ども達自身が体得し成長していく力を信じ、必要な時に的確な指導と適度な支援をすることが大切である。

3、 今後の課題・まとめ

幼・保・小　各校の実践発表後、進学児童についての丁寧な引き継ぎは時間的に難しい。

今回寺内小学校が使用した「就学前調査表」は漏れなく進学児の申し送りをする有効な手段であると感じた。

熊野田・泉丘小学校区

【参加人数】小学校(12)名 こども園(5)名 幼稚園(3)名 保育所(園)(4)名 児童発達支援センター(0)名

1、 基調とした発表

メインテーマ「幼保小連携を深める中で子どもにつけたい力とは」にそって、熊野田小学校、泉丘小学校から取り組みの紹介をする。

泉丘小学校から

・前年度に取り組んだ体験入学の様子を紹介する。年長児は授業の中に入り、1 年の児童の音読や歌を聞き、ふきごまを作り、朝顔の種をプレゼントとしてもらう。このことをしっかりと覚えていて、入学を楽しみにしていたことが伝わった。また、「聞く・話す」など入門期につけたい力について取り組みを紹介する。

今年度も同じような取り組みを 2 月 23 日に実施する予定である。

熊野田小学区から

・1 年生子どもたちの様子を紹介する。道徳でやさしい言葉かけができるように、ひとこと日記をつけて気持ちがだせるように取り組んでいる。

11 月に行った「お店屋さん」の取り組みを紹介する。年長児の交流を少しでも密にするため、各クラスが用意したお店で、年長児が楽しめるように工夫しながら進めた。年長児も学校になれる機会となり、リラックスして楽しむことができた。

2 月 23 日に入学体験で学校探検と折り紙づくりなど予定している。

2、 話し合った内容

小学校から

・生活リズムを崩しがちな子どもが不登校になることがある。その傾向にある園児の家庭にどのように働きかけているか。

・段差をどのように取り除いていけるか、幼・保の子どもたちの様子を知ることができる。この場をきっかけに課題のある子どもの情報交換をし、連携していきたい。

幼・保から

・体験(1 年生が使う椅子に座らせてもらう等)により、小学校への不安をやわらげている。

・上靴で生活することも経験して、小学校の生活の様子を知るよい機会となった。

3、 今後の課題・まとめ

夏休み中の幼保訪問は次年度も継続実施。

次回の体験交流 2 月 23 日（火） 雨天決行で実施（学級閉鎖は実施、学年閉鎖は中止）

残り時間は、卒園児の様子や次年度の配慮を要する年長児の情報交換をそれぞれで行う。

豊島北・原田小学校区

【参加人数】小学校（6）名 こども園（3）名 幼稚園（1）名 保育所(園)（3）名

1、 “こどもにつけたい力”を ３グループに分かれてグループ討議をする。

2、 話し合った内容

それぞれの現状

（小学校）

・自分の思いを言葉で伝えることが、弱い。
「トイレ」「お茶」など単語であらわし、どうしたいかまでを伝えない。
あいさつ・返事ができない。

・４５分間集中するのが、むずかしい。
人の話を最後まで、聞けなかったり、自分は自分はと、話を重ねてくる。

・これぐらいは、がまんしないといけないと我慢する姿があり、ともだちが、「あの子こんなんされてたよ」と伝えにくる。

・愛着関係の課題の子が、増えている。

・保護者のかかわりが、「もう、一年生でしょ」とこども任せにしてしまうところがある。 まだ、一年生なので、できているかどうかの確認がいる。

（保育所（園）・幼稚園・こども園）

・してほしいことを単語で表す場合、「～が、どうしたの？」と返して、表現できるように促している。

・時間を意識するように、時計を使って、活動を進めていっている。

・トラブルもできるだけ、子どもたち同士で、解決できるように、まかせられるところは、子どもに返していく。

・保護者がしんどい状況の家庭が増えている。子どもと保育者との関係を大事にし、子どもに力をつけるようにしている。

3、 今後の課題・まとめ

・自尊感情を育んで、自分に自信が持てるようにする。
また、自分と同じようにともだちにも思いがある事がわかり、その思いに気づく。
自分の言いたいことを伝え、相手の言いたいことも聞ける。

・保護者に、小学校に上がり、大きくなったと思うかもしれないけれど、「まだ、一年生なので」子どもにまかせていきながら、できているかを確認してほしいということを伝えていく。

以上のことを 幼保小で同じように、取り組んでいく。

豊島・豊島西小学校区

【参加人数】小学校(6)名 こども園(3)名 幼稚園(4)名 保育所(園)(6)名 児童発達支援センター(6)名

1.基調とした発表

しいの実学園

○リーフレットにより園紹介

◎〈年長4名、年中3名による混合クラスの内容〉

✧ 子どもにつけたい力とは？
・同じメンバーと同じ空間で生活、あそびを共にする。
・友だち、人と関わる力をつける。
→これらを大切にする為に混合クラスにしている。

✧ 1日の生活は、保育と訓練が混じっている。10：00～は集会で親子一緒に、毎月の歌やふれあい体操などの取り組みがある。給食の後、午後からは友だち同士の関わりを深める為に親と分離して活動している。

✧ 体の支援が中心なので、体の状態に合わせて一人ひとりの意志のあらわし方を見つけ、その子なりの表現を受けとめていく。

✧ 年のねらい・目標

前半・好きなあそびを担任や友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。
・それぞれの気持ちや感情をお互いにやりとりをして楽しむ。

➢ はじめは経験が少なく緊張することが多かったので、自分から動いたり声を出すということがなかったが、友だちがそばにいることで自信につながり一緒ならやってみようという姿が出てきた。

後半・遊びの中で順番を譲ったり待ったりなど、相手にも思いや気持ちがあることに気づき知る。
・生活経験をたくさんする。

➢ 保育のあそびの中で自分ばかりを優先するのではなく、相手に気持ちがあることを伝えたい。子どものしぐさをキャッチして相手にその子の気持ちを代弁する。

➢ 畑で作物を作り、実際にクッキングしてみたり、仕方を見せてあげると保護者も仕方がわかって経験につながっていく。

➢ 色々なことを見る、触る、聞くなどの五感を感じられる経験をさせてあげることで自信や意欲につながっていってほしい。

➢ 譲り合いなどの関わり方を経験し、人と関わる力や社会性をつけてほしい。

2.話し合った内容

本年度のテーマに沿って「どんな力をつけたいのか？」についてグループ交流を行う。

○話を聞く力
・自分の主張はするが友だちの意見は聞けない。
・途中で集中力が切れてしまう。

○家庭の力が大切
・学校の思いが伝わらない。
・保護者か構えてしまうので本心が言えない。・何でも保護者がやってしまう。
・不登校、遅刻多い

○思いやり、やさしさ　○待つ力　○向上心　○団結力　○相手の立場に立って考える力
○探究心　○社会性　○人間関係能力　○学ぶ力　○自分の思いをいえる力　○自分の思いを親以外に出す
○あきらめない気持ち　○自分で考える力　○自分の気持ちをコントロールする力

○あそぶ力
・様々なあそびをする中で自ら学んでほしい
・あそびこむ事ができない

○自己肯定感
・愛されている経験が少なく大人を信じていない
・受け止めてもらえていないので自分の気持ちが言えない
・マイナスから入る姿が多い
・ありのままの姿を受け止めて自信につなげていきたい

※幼保小連携について
・施設ごとでの交流を今よりも多くもっていく
・人と関わる機会を作っていく
・子どもの姿を伝え合う場を持ち、つながっていくような体制をとっていく

3.今後の課題・まとめ

各施設が1年間深めてきた内容をもとにグループ交流をすることで、今後大切にしていきたいことが明確になり、幼保小連絡会で意見の交換ができた。今後は、これらを発展させて具体化するためには、ということを考えて取り組みこれからの連携につなげていきたい。

庄内・野田・島田小学校区

【参加人数】小学校（9）名 こども園（4）名 幼稚園（9）名 保育所(園)（1）名 児童発達支援センター（　）名

1、 基調とした発表

「子どものギャップを減らす取り組みや言葉かけにより、スムーズに入学させる工夫についての交流」という意見を踏まえ、全体共通テーマに関連した各校園の取り組みの発表

・幼稚園では自分の身のまわりのことは自分でできるように習慣づけさせる。
・幼稚園でも、できる範囲で話を聞く態度や力、ルールを守る大切さ、社会性や協調性を身につけさせる。
・小学校との交流会に参加したり、小学校の写真や絵を見せて、期待を持たせる。
・状況に応じた判断ができるようかかわる。
・食事時間を決めたり、活動の始まりや終わりなど、時間を意識させる指導を行う。
・こども園での出来事を保護者に話せるよう関わる。
・こども園と小学校での言葉かけや環境のちがいをお互いが認識する。
（こども園では“座りましょう”小学校では“着席”など）
・１年生の授業参観に行き、放課後話し合ったり、放課後子どもクラブの指導員と話し合いの時間を持ったりする。
・入学当初、トイレの不安が多く、最初に和式トイレの使い方を教えた。
・小学校の学習では、ギャップを利用することでやる気を引き出す。
・小学校の学習では、パソコンや実物投影機など、視覚化した教材を使う。
・入学当初、４５分の授業時間を１０分、１５分くらいの単位に区切る。

2、 話し合った内容

・小学校での友だち関係について、友だちの素敵なところを探させたり、保護者にも子どもの素敵なところを探してもらって、友だちのことを知る機会を作った。２学期以降も周りの友だちとの関係づくりが大事。
・小学校の学習では、やる気を持っている子の力をうまく利用して、できることを増やし、できなくても前向きにとらえる。
・生活発表会の運営を子どもが行う。司会、かざりつけ、掲示、掃除などの必要性を考えさせている。子どもたちが積極的に探究していくことで保護者や地域ともつながり、自信をつけていっている。

3、 今後の課題・まとめ

・ギャップには、生かすギャップと埋めるギャップがある。学習の刺激になるギャップもある。幼保小のそれぞれの役割がある。そこは変える必要はない。ギャップをうまく生かすことも大事である。
・生活のリズムについて、小学校生活を意識していくことは大切である。
・年２回の交流であるが、これまでも交流の積み重ねが生かされている。

小曽根・北条小学校区

【参加人数】小学校(7)名 こども園(6)名 幼稚園(5)名 保育所(園)( )名 児童発達支援センター( )名

1、 基調とした発表

＜小曽根小学校から学習発表会の取組みについて発表＞

・学習発表会のリハーサルにこども園や幼稚園の園児を招待することで、児童はお兄さん、お姉さんぶりを発揮して張り切って演技していた。また、本番では、自信を持っていい演技をすることができた。

・参観した園児は、児童の表現や歌に引き込まれ、集中して鑑賞していた。小学生になればこのようなことができるという期待感がふくらんだ。

2、 話し合った内容

テーマ：「コミュニケーション力を高めるには」

※３グループに分かれて、取組みの現状、課題、今後に向けてについて話し合った。

＜取組みの現状＞

・劇発表では、年齢段階に応じて一人ひとりに役割を担わせたり、感情表現ができるよう指導している。運動会のリレーメンバーや走順を園児の話し合いで決めさせている。

・スピーチに継続して取り組むことで、主語、述語を入れた表現ができるようになってきている。

・幼保小の連絡会を受けて、イスの座り方、話の聞き方、話をするときのルールなど、小学生に向けた取組みを進めている。

・ごっこ遊びから自分以外の人の気持ちを考えさせたり、ルールのある遊びを通して我慢することを学ばせるなど、遊びの価値を高める取組みに努めている。

・単語でなく、文章でしゃべらせるようにしている。

・自己表現や発表の機会を大切にし、発表会の練習では、グループ活動を取り入れている。

・気持ちカードを引いて、あたった気持ちに関わるスピーチに取り組ませている。

・読み聞かせをするとき、最後までしっかり聞かせ、質問は終わってからするようにさせている。

＜課題・今後に向けて＞

・トラブルの際、上手に自分の言葉で伝えることができない。きちんと自分の言葉で話せることを大事にしたい。

・分からないことをしっかり質問できる力を身につけさせる必要がある。

・コミュニケーションの基本となるあいさつをきちんとさせる必要がある。

3、 今後の課題・まとめ ※以下について確認

・コミュニケーション力を高めるうえで、しっかり聞く、自分の気持ちを伝えることがベースとして非常に大切である。今後もそれらを促す取組みを各園校で進めていくとともに、取組みの連続性も視野に入れながら、相互の連携をいっそう図っていく。

・個々の子どもの状況や課題について、しっかり情報共有をしていく。

・次年度もグループ討議で顔を見合わせて情報・意見交流することを大切にしていく。

豊南・高川小学校区

【参加人数】小学校(7)名 こども園(8)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(0)名 児童発達支援センター(0)名

1．話し合った内容

・サブテーマ『人の話を聞く』『聞いて行動に移す』

・小学校へのスムーズな移行のために、幼保小それぞれが取り組んだこと

（小学校へ入学した子どもたちに、大事にしてきたこと）

○小学校は「１年生の学年だより」の他「学級通信」も出し、保護者と連絡を取っている。
子どもたちには、くつ箱の使い方、トイレの使い方、お道具箱の管理、給食の準備、（保護者にアレルギーに対しての聞き取り）、鉛筆の持ち方等丁寧に指導した。

○今年度入学してきた子どもたちは、落ち着いてトラブルが少ない。
毎日、皆で遊ぶ時間を設けている。子どもに同じ指示を出すようにしているので、子どもにわかりやすい。

○ひらがなの勉強は比較的スムーズに進んだが、計算になると理解が難しい子どもが出てきた。放課後残して個別指導をしている。保護者にも協力を求める。

（園から小学校に向けて取り組んで来たこと）

○０歳児～５歳児迄いる。こども園では、子どもの現状から就学まで、子どもの成長を見ながら保育している。⟹ 小学校へ繋ぐ

○子どもたちが自ら考え、行動する力をつける

・子どもたちが「先生（リーダー）」になり皆の前で話をする。

・当番活動で、子どもどうしが相談し、相手の思いを聞きながら当番をする。

・「１人でいる子」「困っている子」「わからない子」に話をし、友だちの事を考えて行動する。

○家庭との連携を大切にする

・子どもをまん中にして、園でする事・家庭で出来る事（寝る時間・ゲームする時間・朝ごはんを食べることなど）課題を共有して子育ちしている。

2．今後の課題・まとめ

○ケンカをした時など、自分で説明できない子がいる。“ごめんね”“いいよ”で、解決してしまう。
「何であやまるのか」「何であやまらないといけないのか」という所まで、子どもたちに聞いている。
「誰かに相談する力」は必要。１年生の時から話を聞き取って、その後どうしたいのかを聞く。
１つずつ整理して話を聞く。「わからない」「困った」と言えることが大切。

○保護者自身が話を聞けない。コミュにケーションが取れない。ネット社会で生きている。
「おたより」を出しても見てもらえない。⟹ 大事なことは、メールを使って配信している。

庄内南・庄内西・千成小学校校区

【参加人数】小学校(8)名　こども園(１１)名　幼稚園(5)名　豊中市教育センター(1)名　　計２５名

1.　基調とした講演

豊中市教育センターより支援教育係の河田指導主事を講師にお迎えし、小学校入学前後に支援の必要な子どもたちをめぐる様々な連携について講演して頂きました。

近年、小・中学校において、支援学級数や支援学級在籍児童数・生徒数、支援を要する幼児数が増加している。その要因は、支援教育の法律的な背景の変化に伴い、メディアやネット検索などから様々な情報が得られるようになったことがあげられる。就学相談の目的として、４月の学校生活をいかにスムーズにスタートを切ることができるのかを考えることが必要であり、そのためには就学に関する情報提供とともに、保護者や子どもたちの困り感を把握し、園・小学校・保護者・市教育委員会との連携と情報の共有が大切である。

市教育センターは、毎年多くの園からの相談に対応し、本人・保護者の意向を最大限尊重し、地域の学校(通常学級籍又は支援学級籍)や支援学校へと就学先を決定している。

発達障害のある子や親の悩みを把握し、その子につながるすべての人(相談機関・医療機関・教育委員会・療育機関等)が密な連携を行うことで支援の安定が図られるという内容の講演でした。

2.　話し合った内容

就学の対応(引き継ぎ時)において、保護者の意向として、我が子に対して支援を必要と感じない人もいる。このような場合は、今までどのような対応をしていたか詳細を伝え、就学しても配慮して頂くよう声かけをしているケースもある。

環境が変わっても、変わらない支援の提供が必要であり、小学校としてはクラス編成もあるため、もらった情報を受け継ぐことが大切で配慮が必要な子どもは、よく知っておく方が対応しやすい。

支援学級に在籍するしないに関わらず、学校への情報提供と園への働きかけなど、形式や時期にとらわれない柔軟な連携が必要である。

3.　今後の課題・まとめ

切れめのない支援・実現のために、個別の(教育)支援計画・指導計画を立てることが大切であり、あくまでもより良い連携のための一助であるが、引き継ぐ側と受け取る側の意識の向上が不可欠である。

支援教育とは、対象の子どもが、学校生活を安定して過ごすことができるよう個々の障害や特性に応じた支援を行うことである。自立に向けていずれは自分(支援者)がいなくなることを目標とした支援を展開し、目の前にある支援とその先にある自立のバランスを意識してあせらず、ゆっくり・じっくりと支援をすることが必要となる。

小学校は、園からの情報提供をどう活かしていくかが大切であり、保護者の意識をどう持たせたいか考えていかなければならない。